

第2部 我孫子市の平和事業

1. 継続事業

(3) 平和の集い～我孫子から平和を願う～

○日時：平成27年12月6日（日）13:00～

○場所：けやきプラザ 2階 ふれあいホール

○参加者数：延べ570名

平和の集いでは、8月に広島に派遣された中学生の派遣報告のほか、原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんが病床で折った折り鶴が、兄の雅弘さんと甥の祐滋さんから寄贈されました。



第1部の発表の様子



「禎子鶴」寄贈式



『禎子物語』朗読

第1部 13時00分～

◆ 中学生が語る 平和への思いを！

派遣中学生24名が、8月に広島で学び考えてきたことを、スライドを交えながら報告し、自分たちの言葉で平和への思いを語りました。

第2部 14時15分～

◆ 禎子鶴寄贈式

佐々木雅弘さんは来場者に向けて、「禎子鶴をご覧になる際は、禎子が折り鶴に込めた思いやりの心“私よりあなた”の気持ちをぜひ思い浮かべてほしい」と挨拶されました。禎子鶴は、我孫子中の温井さんが、派遣中学生を代表して受け取りました。

◆ 『禎子物語』朗読

佐々木禎子さんが被爆し亡くなるまでの物語を、我孫子中学校演劇部と佐々木雅弘さんが朗読し、祐滋さんがBGMを演奏しました。禎子さんの当時の写真を背景に朗読された『禎子物語』に、客席からはすすり泣く声も聞こえ、多くの人々の心に深く響きました。

第3部 15時40分～

◆ INORI コンサート in ABIKO

(協力 INORI コンサート in ABIKO 実行委員会)
我孫子近隣にお住まいの方々が、佐々木祐滋さんと一緒にコンサートを行いました。コンサートには、布佐中吹奏楽部や白山中 合唱部、混声合唱団「響」の皆さんも参加し、演奏を通じて、平和へのメッセージを訴えました。

◆ 「禎子鶴」の展示

○お披露目式：平成27年12月12日（土）

○展示場所：生涯学習センターアビスタ1階 手賀沼公園側入口

寄贈された「禎子鶴」は、キャラメルのパッケージで折られた高さ1cmほどの小さな折り鶴です。派遣中学生の手によって展示されました。



写真（上）：寄贈された禎子鶴

写真（右）：禎子鶴展示の様子



「禎子鶴」寄贈メッセージ

この小さな折り鶴は、広島市の平和公園にある「原爆の子の像」のモデルになっている折り鶴の少女「佐々木 禎子（ささき さだこ）」が実際に折った折り鶴です。

1945年8月6日、広島に投下された原子爆弾によって当時2歳だった禎子は、爆心地から1.6kmの自宅で被爆し、その10年後の12歳の時に突然白血病を発病しました。その闘病中に千羽鶴と出会い、「鶴を千羽折れば願いが叶う」という言い伝えを知り、来る日も来る日も折り鶴を折り続けたのですが、願いは届かず12歳という若さで天国へ行ってしまったのです。

この闘病中に折った1羽の折り鶴には、そんな禎子の肉体的な痛みや精神的な苦しみに必死に耐えぬいた頑張りや、残された家族の事を気遣う思いやりの心や、絶望の中でも一筋の光を追い求める希望などが込められていますので、少しでも禎子の心に触れて頂き、禎子を含めた、志半ばで道を絶たれた多くの命を忘れずに、あのような悲劇を2度と繰り返さぬという平和のメッセージが、この折り鶴を通じて、皆さまの心に届きますことを心より願っております。

NPO 法人 SADAKO LEGACY

佐々木 雅弘（禎子の兄）

祐滋（禎子の甥）